

ブラックストーン、国内不動産に2兆円投資 企業の資産売却受け皿に

2026/03/25 02:00 日本経済新聞電子版

投資ファンド大手の米ブラックストーン・グループは3年間で日本の不動産に150億ドル（約2.4兆円）を投資する。データセンターや物流施設、ホテルなどを取得する。企業に資本効率を意識した経営が広がり、資産のスリム化に伴う不動産の売却が増えるとみて日本への投資を拡大する。

ブラックストーンは世界最大級の不動産ファンドの一つだ。2025年に赤坂プリンスホテル跡地の複合ビル「東京ガーデンテラス紀尾井町」を約4000億円で西武ホールディングス（HD）から取得した。米中対立の激化や円安で欧米投資家は中国などから日本へのシフトを進める。都心部を中心に外資の大型投資が相次ぐ。

不動産サービス大手のシービーアールイー（CBRE、東京・千代田）によると、25年の国内の不動産投資額は6兆5000億円超と、05年の調査開始以降で最大を更新した。カナダのファンド大手ブルックフィールドも5年で100億ドル以上を投資する計画を明らかにしている。

ブラックストーンの不動産部門グローバル責任者、ナディーム・メグジ氏は「東京や大阪の不動産の需要は世界屈指だ。強力な収益の成長が見込める」と語る。福岡など他都市の案件も積極的に探す。

AIの発達に伴って世界的にデータセンターの需要が急増している。ブラックストーンは世界最大のデータセンターへの投資家だ。これまでに1300億ドルを投じてきた。日本でも投資を拡大する。今後、世界全体で20兆円以上を投じる見通しだ。



許諾番号NK002541 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.